

## 「勉強する意味」

敦賀市立栗野中学校 2年 西本 俊介 (にしもと しゅんすけ)

「なぜ勉強するの？」

この質問に、あなたならどう答えますか？勉強が嫌になった時に考えたことのある人も多いのではないのでしょうか。もしかしたら、勉強する理由について深く考えたことがない人もいるかもしれません。私もその一人でした。しかし、最近、ある授業で私の考えが大きく変わる経験をしました。

以前、私が何となく考えていた勉強の目的は「良い高校や大学に入るため」や「就きたい職業に就いて幸せに暮らすため」でした。例えば、高校の進学先を決める時に名門高校に入れば将来の選択肢が広がるのではないかというような考えです。このように、勉強はすべて「自分のためにするもの」と考えていました。

しかし、ある授業で先生が言った一言が、私の考えを大きく変えました。それは、「人間は自分のために行動するよりも、人のために行動する方が、より多くの結果を得られる。だから、人のために勉強するというのも一つの考え方なんだよ」というものでした。この言葉を聞いて、初めて「人のために勉強する」という視点を持つことができました。

さらに、学校に行けない国の子どもたちの写真を見せて、「こんな子どもたちもいるから、みんなが学校に通い、勉強できることは当たり前のことではないんだよ」と教えていただきました。この話を聞いて、自分が誰のために勉強するのかを真剣に考えるようになりました。

授業で先生が言っていた、学校に行けない世界の子どもたちについて調べてみると、世界では2億5840万人もの子どもが学校に行けていないことが分かりました。これらの子どもたちの中には、戦争や自然災害で学校が破壊されてしまったり、貧困のために働かなければならない子どももいます。また教育を受けることが難しい地域も多く、そこでは教育の機会が限られています。その理由には、「貧困からの脱出が難しい」「経済的理由」「差別」「ジェンダー」など、さまざまな障害があります。これを知って、自分が学校に通い、勉強できることが当たり前ではないと改めて感じました。私には学校に行けば勉強を教えてくれる先生がいて、支えてくれる家族や友達もいます。だから、感謝の気持ちを持ち、その人たちのためにも勉強したいと思うようになりました。

また、私には将来、学校の先生になりたいという夢があります。なぜなら、学校に行くのがつらいと思っている子どもや、勉強をしたくないと思っている子どもを助けたいからです。実際、私も学校に行きたくないと思ったことがあります。そんなとき、支えてくれたのは学校の先生でした。先生はあたたかい気持ちで私の話を聞いてくれ、そのおかげで気持ちが少し楽になり、学校に行きたくないという気持ちも和らぎました。だから、私はその先生のように、当時の私と同じような気持ちを持つ子どもたちを助けたいと考えています。自分がそのような支えを受けた経験があるからこそ、同じように他の子どもたちにも手を差し伸べたいのです。

私が考える勉強する意味はこうです。

「支えてくれている人のため」

「学校に行くのがつらいと思っている子どもたちを助けるため」

この考え方は、最初に持っていた「自分のためだけ」という考え方とは大きく異なります。これからは、自分のためだけでなく、学校に行けない国の子どもたちのことも考えて、当たり前ではない勉強ができる環境に感謝しながら勉強していきたいです。勉強は自分だけのためではなく、より広い世界のためにも役立つことができると気づきました。

「なぜ勉強するの？」この疑問に再びぶつかることがあるかもしれません。そのときは、勉強できる環境が当たり前ではないことを思い出し、人のためにも勉強していきたいです。そして、自分の学びが誰かの役に立つことを願いながら、これからも努力を続けていきたいと思います。